

品質・環境報告書

2017



中京化成工業株式会社

活動レポート(品質・環境) - 2017 -

中京化成工業(株)は、1999年11月26日にISO9001の認証取得に続き、

2004年6月18日にISO14001の認証を取得しました。

今年度も品質と環境のマネジメントシステムの確実な運用を目指して、品質目標と環境目標を可能な限り統合して設定するように努めました。

また、2015年版改訂にも早期に対応すべく、2016年にISO9001の移行を完了したことに引き続き、今年度はISO14001の移行に取り組み、完了しております。

品質・環境方針／品質・環境目標

品質・環境方針

当社は、品質・環境マネジメントシステムの最上位の「基本方針」に当社の取り組む決意と姿勢を表明すると同時に、より具体的に、かつISO9001、ISO14001規格に適合した「品質・環境方針」をまとめて制定しております。

「品質・環境方針」 2016年6月制定

品質基本方針

- ① 我社の製品は常に優秀である。
- ② 我社は製品の品質で勝負する。

環境基本方針

- ① 我社は自然と共生することに最大の関心を払う。
- ② 我社は環境配慮型製品の開発を進める。

品質・環境方針

1. 当社の各事業活動、製品及びサービスを踏まえた品質・環境マネジメントシステムを構築します。また、蓄積された潤滑理論をベースに自動車関連、グリース関連、工業用機械関連、金属加工関連、離型・剥離剤関連、洗浄剤関連などの分野で顧客と地域社会に貢献します。
2. 変化する諸条件及び情報を反映した品質・環境目標を事業年度毎に設定し、運用し、定期的に見直すことにより、品質・環境マネジメントシステムの有効性の継続的改善に努めます。
3. 環境法規、条例、規制や当社が合意したその他の要求事項を順守します。
4. 顧客満足の上昇、環境負荷の低減と汚染の予防及び環境保護に努めます。
5. 全従業員に教育訓練と啓蒙活動を実施すると共に、ビジネスパートナーに対しても理解を求め協力して運用します。

2016. 6. 1

中京化成工業株式会社

代表取締役社長

廣野 拓

2017年度 品質・環境目標

「品質・環境方針」をベースに、当社の管理できる活動、製品、サービスから特定された「著しい環境側面」、法的及びその他の要求事項、更には利害関係者の見解等を配慮して「全社目標」を設定しています。

また、その「全社目標」の達成に向けて各年度に「品質・環境目標」を決めて対応し、その施策の実現に取り組んでおります。

全社目標（品質）

- ①顧客重視
- ②品質（Q、C、D）管理の向上
- ③供給者との互惠関係の強化
- ④予防処置

全社目標（環境）

- ①環境配慮型製品の開発と販売促進
- ②資源・エネルギー・廃棄物の削減
- ③法規制及び組織が同意するその他の要求事項の順守
- ④予防処置

部 門	品質・環境目標	
	内 容	目 標 値
営業1部	顧客の要望している環境配慮型製品の販売	年間売上 7,200万円
営業2部	顧客の要望している環境配慮型製品の販売 〔油煙対策油・汚れ対策油・臭気対策油・再生油・ CLフリー油・鉛フリー油・ボンデフリー油・他〕	年間売上 7,000万円
営業3部	顧客の要望している環境配慮型製品の販売 (水溶性離型剤：ラッシュコート・MSEM-40H・TS-100R)	年間売上 1,300万円
業務購買部	外注先要因によるクレームの防止	0件
	在庫品の異常確認	対処率 100%
製造部	工場内2Sの推進	4ヶ所
	オイル工場製造時の調整件数の削減	2016年度件数以下
	オイル工場都市ガス使用量削減	年間 24,000 m ³ 以下
	グリース工場重油使用量削減	2016年度使用量以下
技術研究所	研究開発第1課	顧客満足度の高い環境配慮型製品の開発 6件 900万円
	研究開発第2課	顧客満足度の高い環境配慮型製品の開発 6件 900万円
	研究開発第3課	顧客満足度の高い環境配慮型製品の開発 6件 900万円
	合計	顧客満足度の高い環境配慮型製品の開発 18件 2,700万円
品質保証部	品質の向上（沈殿等管理）	2016年度製造の 全保存サンプル
	電気使用量の削減	2016年度実績以下
総務部	新基幹業務の運営・維持	0件
全社	予防処置（営業部は全体で年間2件以上、研究所は全体で年間4件以上）	年間2件以上

2017年度 品質・環境目標&実績

各関係部門において「品質・環境目標」を設定し、その達成に向けて取り組みました。仔細は次頁の通り。

部 門		環境目的	取組 年数	目 標	実 績	評 価	
1. 増	営業1部	顧客の要望している環境配慮型製品の販売	④	年間売上 7,200万円	7,305万円	(〇)	
	営業2部	顧客の要望している環境配慮型製品の販売	⑧	年間売上 7,000万円	7,362万円	(〇)	
	営業3部	顧客の要望している環境配慮型製品の販売	⑧	年間売上 1,300万円	1,526万円	\(^o^)/	
	技 術 研 究 所	研究開発第1課	顧客満足度の高い環境配慮型製品の開発	④	6件 900万円	8件 726万円	(〇)
		研究開発第2課	顧客満足度の高い環境配慮型製品の開発	④	6件 900万円	4件 875万円	m()m
		研究開発第3課	顧客満足度の高い環境配慮型製品の開発	④	6件 900万円	18件 1,457万円	\(^o^)/
		合計	顧客満足度の高い環境配慮型製品の開発	④	18件 2,700万円	30件 3,058万円	\(^o^)/
品質保証部	品質の向上（沈殿等管理）	①	2016年度製造の 全保存サンプル	100%	(〇)		
全社	予防処置（営業部は全体で年間2件以上、研究所は全体で年間4件以上）	⑥	各部門 年間2件以上	11件	(〇)		
2. 減	業務購買部	外注先要因によるクレームの防止	⑬	年間 0件	4件	m()m	
		入庫品の異常確認	①	対処率 100%	90.9%	(〇)	
	製造部	工場内2Sの推進	①	4ヶ所	4ヶ所	(〇)	
		オイル工場製造時の調整件数の削減	④	2016年度件数以下	22件	m()m	
		オイル工場都市ガス使用量削減	②	年間24,000㎡以下	30,545㎡	m()m	
		グリース工場重油使用量削減	③	2016年度使用量 以下	29,710L	(〇)	
	品質保証部	電気使用量の削減	⑥	2016年度実績以下	1.0%増	(〇)	
	総務部	新基幹業務の運営・維持	①	年間 0件	0件	(〇)	

評価の凡例

\(^o^)/ : 目標値を10%以上達成しました！
 (〇) : ほぼ目標値
 m()m : 目標値の90%以下に終わりました

各部のコメント

テーマ	部門	達成率（目標対比）	コメント
顧客の要望している環境配慮型製品の販売	営業1部	101.5%	キャンペーン等を確実に取り込みできたことで目標達成ができました。
顧客の要望している環境配慮型製品の販売	営業2部	105.2%	本年度は既存の汚れ対策油が顧客先での機械増設分と、新規製品で油煙対策品、塩素フリー品の出荷が好調であったことで目標を達成しました。
顧客の要望している環境配慮型製品の販売	営業3部	117.4%	本年度は新規の海外案件で水溶性離型剤の販売が増加しており年間目標を達成することができました。次年度は更に新規案件数を増やして目標達成に取り組みます。
顧客満足度の高い環境配慮型製品の開発	研究所1課	件数：133.3% 金額：80.6%	新規開発件数は達成しましたが金額がショートしてしまいました。年度当初の数字の伸びが非常に悪く最後までそれに引きずられてしまいました。
顧客満足度の高い環境配慮型製品の開発	研究所2課	件数：66.6% 金額：97.2%	今年度の売り上げのほとんどが2製品の結果に留まり、それに続く案件がトライの長期化や不調に終わる等ことごとく計上に至らなかった事が要因です。
顧客満足度の高い環境配慮型製品の開発	研究所3課	件数：300.0% 金額：161.9%	本年度は案件を多く開発することで合わせて金額目標を達成することができました。18件の開発品については次年度は売り上げを伸ばすよう努力します。
品質の向上（沈殿等管理）	品質保証部	5,242/5,242 (件)	累計で5,242件の製品を調査して40件の製品に配合由来ではない沈殿が確認されました。次年度はこの原因調査の徹底と対策を実施していきます。
予防処置	全社	6/6部門	11案件中7案件は複数の部門での共同案件となっています。内、3案件が3部門以上での共同案件となっております。（6部門の全てが目標達成となりました。）

各部のコメント

テーマ	部門	達成率(目標対比)	コメント
外注先要因によるクレームの防止	業務購買部	4件	外注先要因のクレームの4件すべてがスプレー品でした。容器起因の案件が多かったことから缶メーカーへの対策徹底を促していきます。
入庫品の異常確認	業務購買部	90.9%	自部門では1件の異常の見落としでも納入先にご迷惑をかけております。目標の90%では0%と変わりがなく、100%でなければユーザー様に迷惑が掛かってしまうということを痛感しました。
工場内2Sの推進	製造部	100%	今年度は工場を4ヶ所に分けて実施、目標を達成はしましたが、まだ2Sをやるべき箇所はありますので続けて推進していきます。それとともに、現状維持のために作業終了時の清掃を習慣になるようにしていきます。
オイル工場製造時の調整件数の削減	製造部	36.4%	年度当初よりベテラン社員の長期療養で休暇を取ったため仕込みで人員不足となり、合わせて先行生産の時期が重なり作業が煩雑になりました。
オイル工場都市ガス使用量削減	製造部	78.6%	ベテラン社員の長期離脱により仕込みに手間取り、2～3月は目標数値の約2倍を使用してしまい、年間でも取り戻すことができませんでした。
グリース工場重油使用量削減	製造部	93.9%	昨年のグリース生産量対比で102.9%と増加しておりますがそれを加味しても昨年の使用量より増加している結果となりますが、年度末にかけての寒波の襲来を考慮しますと妥当な数値と考えられます。
電気使用量の削減	品質保証部	97.6%	今年度は単月で4ヶ月は目標を達成しましたが、残りの8ヶ月及び累計で目標が未達となりました。ただし、デマンド値は引き下げることができております。
新基幹業務の運営・維持	総務部	0件	今年は新システムでの運用の初年度で不具合がもあり修正も多くありましたが、需要家のクレームの発生はありませんでした。



中京化成工業株式会社

CKK CHUKYO KASEI KOGYO CO., LTD.

ISO9001:2015 (JQA-QM3984)

ISO14001:2015 (JQA-EM4081)

〒448-0008

愛知県刈谷市今岡町西吹戸 10-1

TEL: (0566)36-3690 (代表)

FAX: (0566)36-6156

URL: <http://www.c-k-k.co.jp>

10-1, Nishifukido, Imaoka-cho

Kariya-City, Aichi-Pref., JAPAN

TEL: 0566-36-3690 (General Line)

FAX: 0566-36-6156